

HSBC アジア・クオリティ 株式オープン

◎当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2010年3月23日～2019年3月4日 (当初：無期限)	
運用方針	HSBC アジア・クオリティ株式マザーファンド受益証券への投資を通じて、主に日本を除くアジア諸国の株式等に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。	
主要運用対象	HSBC アジア・クオリティ株式オープン	HSBC アジア・クオリティ株式マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	HSBC アジア・クオリティ株式マザーファンド	主に日本を除くアジア諸国の株式等を投資対象とします。
組入制限	HSBC アジア・クオリティ株式オープン	株式への実質投資割合には制限を設けません。また、外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	HSBC アジア・クオリティ株式マザーファンド	株式への投資には制限を設けません。また、外貨建資産への投資には制限を設けません。
分配方針	年1回の決算時（毎年3月17日、休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。 ①分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②分配金額は、委託者が基準価額水準・市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。 ③留保益の運用については特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

償還運用報告書（全体版） (償還日 2019年3月4日)

◎受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「HSBC アジア・クオリティ株式オープン」は、信託約款の規定に基づき、2019年3月4日をもちまして信託を終了し、繰上償還いたしました。

ここに運用経過と償還内容をご報告いたしますとともに、これまでのご愛顧に対し厚くお礼申し上げます。

HSBC 投信株式会社

東京都中央区日本橋3-11-1 HSBCビルディング
 ≪お問い合わせ先（クライアントサービス本部）≫
 電話番号：03-3548-5690
 （営業日の午前9時～午後5時）
 ホームページ：www.assetmanagement.hsbc.com/jp



◎最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 (分 配 落)	期 騰 落 中 率		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
		税 込 分 配	み 金			
第5期 (2015年3月17日)	円 15,266	円 500	% 37.5	% 98.1	% —	百万円 1,248
第6期 (2016年3月17日)	12,027	500	△17.9	98.9	—	821
第7期 (2017年3月17日)	14,275	500	22.8	99.2	—	861
第8期 (2018年3月19日)	15,570	350	11.5	96.4	—	753
(償還時) 第9期 (2019年3月4日)	(償還価額) 14,361.72	—	△ 7.8	—	—	541

(注) 基準価額の期中騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式組入比率」には、オプション証券等を含みます。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

◎当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
3月末	15,094	△ 3.1	96.3	—
4月末	15,494	△ 0.5	94.7	—
5月末	15,315	△ 1.6	94.8	—
6月末	14,650	△ 5.9	94.2	—
7月末	15,353	△ 1.4	95.3	—
8月末	15,272	△ 1.9	95.9	—
9月末	15,499	△ 0.5	94.5	—
10月末	13,616	△12.5	95.0	—
11月末	14,399	△ 7.5	94.9	—
12月末	13,601	△12.6	95.5	—
2019年 1月末	14,261	△ 8.4	64.7	—
2月末	14,403	△ 7.5	—	—
(償還時) 2019年 3月4日	(償還価額) 14,361.72	△ 7.8	—	—

(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

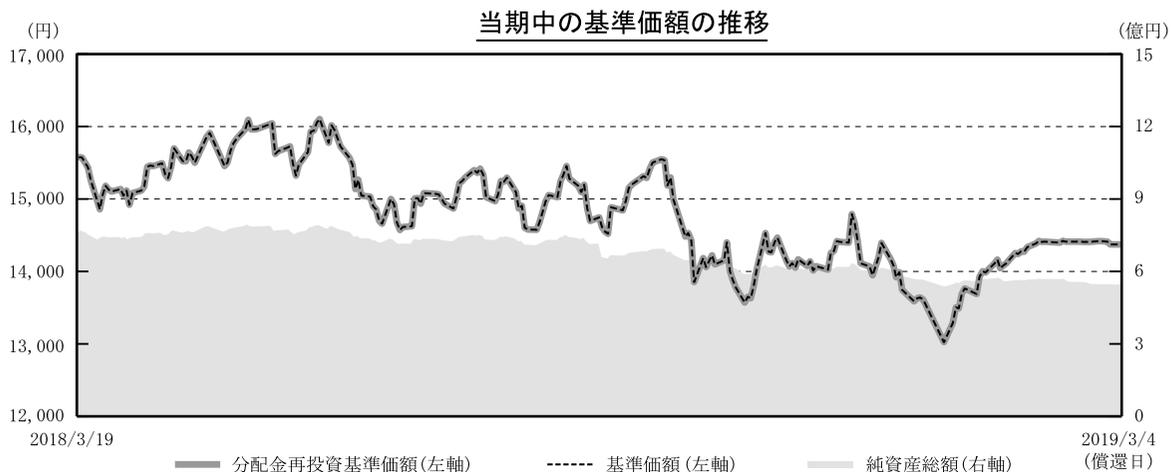
(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

◎投資環境と運用状況



*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

*分配金を再投資するか否かについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、それぞれのお客様の損益の状況を示すものではありません。



*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

*分配金を再投資するか否かについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、それぞれのお客様の損益の状況を示すものではありません。

・分配金再投資基準価額は、期首（2018年3月19日）の値を基準価額と同一になるよう指数化しております。

1. 基準価額等の推移について（当期）

【基準価額・騰落率】

第9期首： 15,570円

償還日： 14,361円72銭（既払分配金：－円）

騰落率： －7.8%（分配金再投資ベース）

2. 基準価額の主な変動要因（当期）

<上昇要因>

期を通じて組入上位に維持したエネルギーの中国海洋石油（CNOOC、中国）などの株価が上昇し、基準価額にプラスに寄与しました。

<下落要因>

期を通じて組入上位に維持したソフトウェア・サービスの騰訊控股（TENCENT、中国）、中国建設銀行（CHINA CONSTRUCTION BANK、中国）、中国工商銀行（INDUSTRIAL & COMMERCIAL BANK OF CHINA、中国）などの株価が下落し、基準価額にマイナスに寄与しました。

3. 投資環境について

【株式市況】

当ファンドの設定日から2011年前半までは、世界の主要中央銀行の積極的な金融緩和と世界景気の回復期待を背景にアジア株式市場は堅調な推移となりました。その後は、欧州でギリシャの債務問題が表面化し、金融システムに対する懸念からアジアを含み世界的に株式市場が下げる場面もありましたが、2012年以降は、先進主要国が金融緩和を継続したこと、世界的に景気回復がみられたことから株価は上昇しました。2015年には、米国が利上げに転じるとの思惑が広がり、中国株式市場の変動性が高まったことなどを背景にアジアの株式市場は調整局面を迎えましたが、2016年から2017年には世界経済が好調を維持したこと、世界の主要中央銀行が景気に配慮した金融政策を継続したことなどを背景に、アジア株式は堅調に転じました。2018年に入ると市場参加者の間で米国の金利上昇に対する懸念が広がり、アジアを含め世界の株式市場で株価は軟調に転じました。設定日から償還日までの期間を通してみると、アジア株式市場は上昇しました。

【為替相場】

当ファンドの設定以来、世界経済が世界金融危機からの回復に向かう中で、世界の主要中央銀行は金利の引き下げ、流動性の供給などの金融政策を採ってきました。こうした中で、日本銀行は大胆な量的緩和策の維持やマイナス金利策を採用する一方、米国は2015年12月に利上げを実施し、以来緩やかなペースで政策金利を引き上げました。このため、為替市場は、米ドル高、円安の動きを見せました。これを受け、アジアの中で米ドルとの連動性の高い通貨（香港ドル、シンガポールドル、台湾ドル）などは、円に対して強含む展開となりました。一方で、インドルピー、インドネシアルピアなどは、投資家が一時期これらの通貨の脆弱性に警戒感を持ったこともあり、円に対して下落しました。

4. ポートフォリオについて

<HSBC アジア・クオリティ株式オープン>

主要投資対象である「HSBC アジア・クオリティ株式マザーファンド」を、期を通じて高位に組み入れました。

<HSBC アジア・クオリティ株式マザーファンド>

設定日以降、長期的なアジア株式に対する強気の見方を維持し、当ファンドが主たる投資対象とする「クオリティ株式」（高配当もしくは企業予測収益の安定性が期待される銘柄群）を中心に、アジア株式の組入比率を高位に維持しました。国・地域別には、中国、香港、韓国、台湾、インドなどの銘柄の組み入れを高位に維持しました。

5. ベンチマークとの差異について

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

◎1万口当たりの費用明細

項目	第9期		項目の概要
	2018/3/20～2019/3/4		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 275	% 1.864	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(157)	(1.067)	ファンドの運用等の対価（運用委託先への報酬が含まれます。）
（販売会社）	(108)	(0.735)	分配金・換金代金の支払い、運用報告書等の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(9)	(0.062)	運用財産の管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	37	0.253	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株式）	(37)	(0.250)	
（投資信託証券）	(0)	(0.002)	
(c) 有価証券取引税	11	0.076	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（株式）	(10)	(0.071)	
（投資信託証券）	(1)	(0.005)	
(d) その他費用	64	0.433	(d) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(61)	(0.411)	海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡費用
（監査費用）	(1)	(0.004)	監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
（その他）	(2)	(0.018)	振替制度にかかる費用、印刷業者に支払う法定書類にかかる費用等
合計	387	2.626	
期中の平均基準価額は、14,746円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加設定・一部解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、「(b) 売買委託手数料」、「(c) 有価証券取引税」および「(d) その他費用」は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注) 「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注) 「投信会社」は、以下、「委託者」、「委託会社」という場合があります。

(注) 「(d) その他費用」の「(その他)」には、支払い外国税（1万口当たり0円）が含まれます。

◎親投資信託受益証券の設定、解約状況（2018年3月20日から2019年3月4日まで）

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
HSBC アジア・クオリティ株式マザーファンド	千口 16,659	千円 36,848	千口 363,787	千円 767,111

(注) 単位未満は切捨て。

◎親投資信託の株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合（2018年3月20日から2019年3月4日まで）

項 目	当 期
	HSBC アジア・クオリティ株式マザーファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	1,087,315千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	629,780千円
(c) 売 買 高 比 率 (a) / (b)	1.72

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 単位未満は切捨て。

◎利害関係人との取引状況（2018年3月20日から2019年3月4日まで）

(1) 親投資信託における当期中の利害関係人との取引状況

区 分	当 期					
	買付額等			売付額等		
	A	うち利害関係人との取引状況B	$\frac{B}{A}$	C	うち利害関係人との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株 式	百万円 216	百万円 14	% 6.5	百万円 871	百万円 6	% 0.7
為 替 直 物 取 引	269	76	28.3	977	343	35.1

平均保有割合100.0%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該子ファンドの親投資信託所有口数の割合です。

(注) 単位未満は切捨て。

(2) 当期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売 買 委 託 手 数 料 総 額 (A)	1,682千円
う ち 利 害 関 係 人 へ の 支 払 額 (B)	52千円
(B) / (A)	3.1%

(注) 売買委託手数料総額は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 単位未満は切捨て。

*利害関係人とは投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは、ザ・ホンコン・アンド・シャンハイ・バンキング・コーポレーション・リミテッド（香港）、ザ・ホンコン・アンド・シャンハイ・バンキング・コーポレーション・リミテッド（東京）です。

◎組入資産の明細

信託終了日における有価証券の組入れはありません。

以下は前期末（2018年3月19日）の状況です。

親投資信託残高

種 類	当 期 首 (前 期 末)	
	口 数	評 価 額
HSBC アジア・クオリティ株式マザーファンド	千口 347,127	千円 778,572

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

◎投資信託財産の構成

2019年3月4日現在

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 547,280	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	547,280	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

◎資産、負債、元本及び償還価額の状況

2019年3月4日現在

項 目	償 還 時
(A) 資 産	547,280,468円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	547,280,468
(B) 負 債	5,337,695
未 払 信 託 報 酬	5,268,792
未 払 利 息	1,199
そ の 他 未 払 費 用	67,704
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	541,942,773
元 本	377,352,254
償 還 差 益 金	164,590,519
(D) 受 益 権 総 口 数	377,352,254口
1万口当たり償還価額 (C / D)	14,361円72銭

◎損益の状況

自2018年3月20日
至2019年3月4日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 1,199円
支 払 利 息	△ 1,199
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△33,139,545
売 買 益	11,346,565
売 買 損	△44,486,110
(C) 信 託 報 酬 等	△12,622,241
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	△45,762,985
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	139,808,947
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	70,544,557
(配 当 等 相 当 額)	(63,360,633)
(売 買 損 益 相 当 額)	(7,183,924)
償 還 差 益 金 (D + E + F)	164,590,519

(注) 当ファンドの期首元本額は483,795,346円、期中追加設定元本額は24,149,048円、期中一部解約元本額は130,592,140円です。

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 親投資信託の投資信託財産の運用指図に係る権限を委託するために要する費用として、委託者報酬の中から支弁した額は、2,066,582円です。

◎投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2010年3月23日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2019年3月4日		資産総額	547,280,468円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	5,337,695円
				純資産総額	541,942,773円
受益権口数	4,176,215,734口	377,352,254口	△3,798,863,480口	受益権口数	377,352,254口
元本額	4,176,215,734円	377,352,254円	△3,798,863,480円	1万口当たり償還金	14,361.72円

毎計算期末の状況

計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
第1期	5,951,087,471円	5,853,843,151円	9,837円	0円	0.0000%
第2期	2,772,088,086	2,890,851,365	10,428	150	1.5000
第3期	1,620,860,257	1,964,289,149	12,119	500	5.0000
第4期	1,053,656,526	1,208,596,237	11,470	500	5.0000
第5期	817,619,902	1,248,147,176	15,266	500	5.0000
第6期	683,037,877	821,468,963	12,027	500	5.0000
第7期	603,542,315	861,555,311	14,275	500	5.0000
第8期	483,795,346	753,290,023	15,570	350	3.5000

◎償還金のお知らせ

1万口当たり償還金	14,361円72銭
-----------	------------

(個人の受益者に対する課税)

※償還金が個別元本を上回る場合、上回る部分に20.315% (所得税15.315%、地方税5%) の源泉分離課税がかかります。

税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

税金の取扱いの詳細等については、税務の専門家等にご確認されることをお勧めします。

※当ファンドの信託終了日における有価証券の組入れはありません。以下は参考情報です。

◆親投資信託「HSBC アジア・クオリティ株式マザーファンド」の運用状況

償還日（2019年3月1日）
（2018年3月20日～2019年3月1日）

◎当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	主に日本を除くアジア諸国の株式等に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。
主要運用対象	主に日本を除くアジア諸国の株式等を投資対象とします。
組入制限	株式への投資には制限を設けません。また、外貨建資産への投資には制限を設けません。

◎最近5期の運用実績

決算期	基準価額	期騰落率	株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	円	%	%	%	百万円
第5期（2015年3月17日）	18,860	39.9	94.1	—	1,301
第6期（2016年3月17日）	15,797	△16.2	93.9	—	865
第7期（2017年3月17日）	19,754	25.0	95.0	—	899
第8期（2018年3月19日）	22,429	13.5	93.2	—	778
第9期（2019年3月1日） （償還時）	（償還価額） 21,050.57	△6.1	—	—	547

（注）当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

（注）「株式組入比率」には、オプション証券等を含みます。

（注）「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

◎当期中の基準価額等の推移

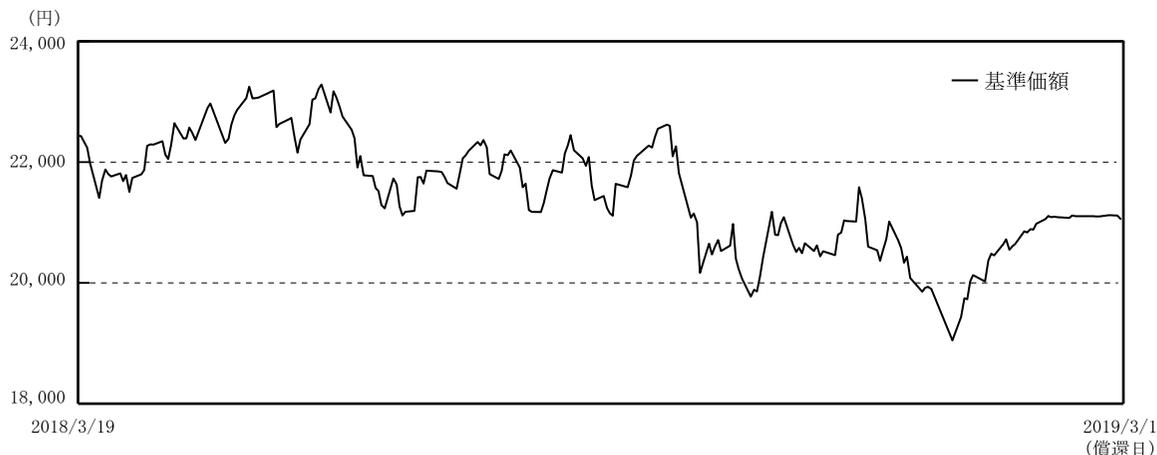
年月日	基準価額	騰落率	株式組入比率	株式先物比率
		騰落率		
(期首)	円	%	%	%
2018年3月19日	22,429	—	93.2	—
3月末	21,754	△3.0	96.3	—
4月末	22,363	△0.3	94.5	—
5月末	22,150	△1.2	94.5	—
6月末	21,225	△5.4	93.7	—
7月末	22,274	△0.7	94.6	—
8月末	22,192	△1.1	95.0	—
9月末	22,549	0.5	94.5	—
10月末	19,844	△11.5	94.7	—
11月末	21,014	△6.3	94.6	—
12月末	19,882	△11.4	94.9	—
2019年1月末	20,873	△6.9	64.2	—
2月末	21,106	△5.9	—	—
(償還時)	(償還価額)			
2019年3月1日	21,050.57	△6.1	—	—

（注）騰落率は期首比です。

（注）「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

◎投資環境と運用状況

1. 基準価額等の推移について（当期）



【基準価額・騰落率】

期首（2018年3月19日）：	22,429円
償還日（2019年3月1日）：	21,050円57銭
騰落率	： -6.1%

2. 基準価額の主な変動要因（当期）

<上昇要因>

期を通じて組入上位に維持したエネルギーの中国海洋石油（CNOOC、中国）などの株価が上昇し、基準価額にプラスに寄与しました。

<下落要因>

期を通じて組入上位に維持したソフトウェア・サービスの騰訊控股（TENCENT、中国）、中国建設銀行（CHINA CONSTRUCTION BANK、中国）、中国工商銀行（INDUSTRIAL & COMMERCIAL BANK OF CHINA、中国）などの株価が下落し、基準価額にマイナスに寄与しました。

3. 投資環境について

【株式市況】

当ファンドの設定日から2011年前半までは、世界の主要中央銀行の積極的な金融緩和と世界景気の回復期待を背景にアジア株式市場は堅調な推移となりました。その後は、欧州でギリシャの債務問題が表面化し、金融システムに対する懸念からアジアを含み世界的に株式市場が下げる場面もありましたが、2012年以降は、先進主要国が金融緩和を継続したこと、世界的に景気回復がみられたことから株価は上昇しました。2015年には、米国が利上げに転じるとの思惑が広がり、中国株式市場の変動性が高まったことなどを背景にアジアの株式市場は調整局面を迎えましたが、2016年から2017年には世界経済が好調を維持したこと、世界の主要中央銀行が景

気に配慮した金融政策を継続したことなどを背景に、アジア株式は堅調に転じました。2018年に入ると市場参加者の間で米国の金利上昇に対する懸念が広がり、アジアを含め世界の株式市場で株価は軟調に転じました。設定日から償還日までの期間を通してみると、アジア株式市場は上昇しました。

【為替相場】

当ファンドの設定以来、世界経済が世界金融危機からの回復に向かう中で、世界の主要中央銀行は金利の引き下げ、流動性の供給などの金融政策を採ってきました。こうした中で、日本銀行は大胆な量的緩和策の維持やマイナス金利策を採用する一方、米国は2015年12月に利上げを実施し、以来緩やかなペースで政策金利を引き上げました。このため、為替市場は、米ドル高、円安の動きを見せました。これを受け、アジアの中で米ドルとの連動性の高い通貨（香港ドル、シンガポールドル、台湾ドル）などは、円に対して強含む展開となりました。一方で、インドルピー、インドネシアルピアなどは、投資家が一時期これらの通貨の脆弱性に警戒感を持ったこともあり、円に対して下落しました。

4. ポートフォリオについて

設定日以降、長期的なアジア株式に対する強気の見方を維持し、当ファンドが主たる投資対象とする「クオリティ株式」（高配当もしくは企業予測収益の安定性が期待される銘柄群）を中心に、アジア株式の組入比率を高位に維持しました。国・地域別には、中国、香港、韓国、台湾、インドなどの銘柄の組入れを高位に維持しました。

◎1万口当たりの費用明細（2018年3月20日から2019年3月1日まで）

項 目	金 額	比 率
(a) 売買委託手数料 (株 式) (投資信託証券)	54円 (53) (1)	0.252% (0.249) (0.002)
(b) 有価証券取引税 (株 式) (投資信託証券)	16 (15) (1)	0.076 (0.071) (0.005)
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	136 (96) (40)	0.636 (0.449) (0.187)
合 計	206	0.964

- ・期中のマザーファンドの平均基準価額は21,435円です。
- ・各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しております。なお、費用項目の概要については、5ページをご参照ください。
- ・「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。
- ・「(c)その他費用」の「(その他)」には、支払い外国税（1万口当たり0円）が含まれます。

◎当期中の売買及び取引の状況（2018年3月20日から2019年3月1日まで）

(1) 株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外 国	米 国	百株 —	千米ドル —	百株 442	千米ドル 207
	香 港	1,868	千香港ドル 4,142	19,659 (—)	千香港ドル 28,365 (0.18387)
	シンガポール	236	千シンガポールドル 428	457	千シンガポールドル 526
	マレーシア	110	千マレーシアリング 162	494	千マレーシアリング 658
	タイ	999	千タイバーツ 5,562	999	千タイバーツ 5,409
	インドネシア	971	千インドネシアルピア 1,096,202	9,085	千インドネシアルピア 6,124,559
	韓 国	8 (80)	千韓国ウォン 169,571 (—)	165	千韓国ウォン 1,062,502
	台 湾	2,700	千台湾ドル 17,955	4,253	千台湾ドル 42,985
	イ ン ド	248	千インドルピー 6,472	1,123	千インドルピー 38,892

(注) 金額は受渡し代金。

(注) 単位未満は切捨て。

(注) () 内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(2) 投資信託証券

			買 付		売 付	
			口 数	金 額	口 数	金 額
外国	香 港	LINK REIT	口 3,000	千香港ドル 222	口 26,500	千香港ドル 2,233

(注) 金額は受渡し代金。

(注) 単位未満は切捨て。

◎株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合 (2018年3月20日から2019年3月1日まで)

項 目	当 期
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	1,087,315千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	629,780千円
(c) 売 買 高 比 率 (a) / (b)	1.72

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 単位未満は切捨て。

◎利害関係人との取引状況 (2018年3月20日から2019年3月1日まで)

(1) 当期中の利害関係人との取引状況

区 分	当			期		
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$ %	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$ %
株 式	百万円 216	百万円 14	6.5	百万円 871	百万円 6	0.7
為 替 直 物 取 引	269	76	28.3	977	343	35.1

(注) 単位未満は切捨て。

(2) 当期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売 買 委 託 手 数 料 総 額 (A)	1,682千円
う ち 利 害 関 係 人 へ の 支 払 額 (B)	52千円
(B) / (A)	3.1%

(注) 単位未満は切捨て。

*利害関係人とは投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは、ザ・ホンコン・アンド・シヤンハイ・バンキング・コーポレイション・リミテッド（香港）、ザ・ホンコン・アンド・シヤンハイ・バンキング・コーポレイション・リミテッド（東京）です。

◎組入資産の明細 (2019年3月1日現在)

信託終了日における有価証券の組入れはありません。

◎投資信託財産の構成

2019年3月1日現在

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 548,480	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	548,480	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

◎資産、負債、元本及び償還価額の状況

2019年3月1日現在

項 目	償 還 時
(A) 資 産	548,480,157円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	548,480,157
(B) 負 債	1,199,689
未 払 解 約 金	19,551
未 払 利 息	4,822
そ の 他 未 払 費 用	1,175,316
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)	547,280,468
元 本	259,983,642
償 還 差 益 金	287,296,826
(D) 受 益 権 総 口 数	259,983,642口
1万口当たり償還価額 (C/D)	21,050円57銭

《注記事項》

※期首元本額	347,127,785円
期中追加設定元本額	16,659,717円
期中一部解約元本額	103,803,860円

※当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末保有元本額
HSBC アジア・クオリティ株式オープン 259,983,642円

◎損益の状況

自2018年3月20日
至2019年3月 1日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	26,604,949円
受 取 配 当 金	26,641,185
受 取 利 息	4,649
支 払 利 息	△ 40,885
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 70,666,219
売 買 益	37,814,368
売 買 損	△108,480,587
(C) 信 託 報 酬 等	△ 4,255,472
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	△ 48,316,742
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	431,452,218
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	20,188,643
(G) 解 約 差 損 益 金	△116,027,293
償 還 差 益 金 (D+E+F+G)	287,296,826

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みません。

(注) (C)信託報酬等には保管費用等が含まれます。

(注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

◆お知らせ◆

<約款変更のお知らせ>

・2018年6月14日付

法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって運用の指図範囲等の有価証券に新投資口予約権証券を追加する変更を行いました。

<その他のお知らせ>

当ファンドは、受益権口数が信託約款に規定する口数を下回っており、運用を継続するよりもお預かりした運用資産を受益者の皆さまにお返しすることが最善の措置であると判断し、信託約款の規定に基づき、2019年3月4日をもって信託を終了いたしました。